明治大学現代マンガ図書館 所蔵マンガ本 目録データ作成・配架準備事業

概要

当館は、設立者の故・内記稔夫氏が50年以上にわたり収集したマンガ本約27万冊を保有。寄贈を受けた時 点では、目録は紙の台帳で、検索・閲覧は来館者に限られていた。2011年度より、目録のデータ化作業に着 手。2015年度からメディア芸術(https://mediaarts-db.artmuseums.go.jp/) アーカイブ推進支援事業の支援も 受け、2021年には、目録データ19万件をインターネットで公開(https://s-

opac.net/Opac/search.htm?s=5YS1vzZKPBLCwv2TA9pmYx067ib)。検索および全国から利用可能な郵送複写の 提供を開始した。引き続き、本年度も目録データ作成の完遂を目指し、データに基づく、併設する米沢嘉博 記念図書館とのコレクション統合を模索している。

体制/手法

- ・目録データ作成・配架準備作業は業務委託によるが、図書館内で実施することにより、対象となる資料 について、協議しながらの推進を可能とした。
- ・限られたスペースで、複数回に分けて作業サイクルを回転させた。 資料種別分類/既所蔵本との照合/目録データの作成/資料IDの貼付/箱番号の採番/収納

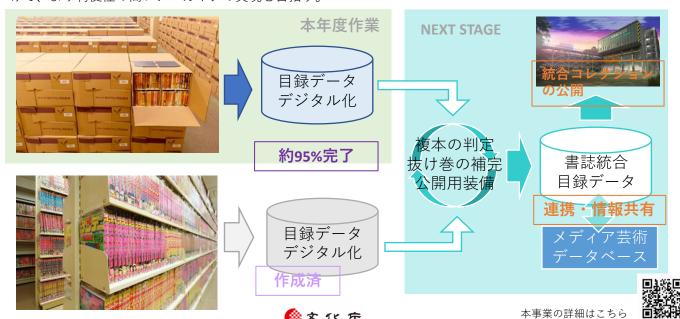
成果

雑誌資料は、作業対象が:8,832冊。

- ・目録データを作成し、出納できるよう配架したもの:7,590冊
- ・複本として判定されたもの:1.242冊
- 参考資料の資料種別分類(170箱)
- ※計画していた参考資料の書誌データ作成は、同人誌のような ISBNのない資料や、日本語以外の資料な ど、当館賭しての「収書・整備方針の再整理」が必要と思われるものであったため、本年度作業では、 書誌データ作成の対象外とし、資料種別調査にとどめることになった。

【文化的・社会的効果】

当館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」を通して積み上げられてきた日本のマンガ文化 の歴史と現在の全体像を反映する「書籍コレクション」である。アーカイブのデジタルデータ化が進み、 ネット検索・閲覧・複写(著作権法第31条による)を可能とし、国内外のマンガ研究に貢献している。明 治大学には、14万冊の蔵書をもつ米沢嘉博記念図書館が併設されており、目録データの整備により、両館資 料の刷り合わせ、複本の判定、抜け巻の補完を行うことが可能となった。今後、両コレクションの統合に向 けて、より利便性の高いアーカイブの実現を目指す。



◎文八斤